

日	月	火	水	木	金	土
熱中症にご注意を！ ～体調の悪いときは外出を控えて～ 外出先でも、家においても こまめに水分を補給しましょう！ 		1日 あいさつ運動	2日 センター長会 (鶴鷗 CC)	3日	4日	5日 献血 (交流)
6日	7日 童マクラブ (七夕会)	8日 盆踊り練習会	9日	10日 ☕ コミカフェ	11日	12日
	習字教室	リリーハーモニー	輝らきら体操 (交流)			
13日	14日	15日 文化祭・農業祭り 準備委員会	16日 チーフ会 (朝山 CC)	17日	18日	19日
しよくどう森々 (交流)	習字教室	まめな教室 (交流)	輝らきら体操 (交流)		幼・小終業式	
20日	21日 海の日	22日 広報配布 自治会長会	23日	24日 ☕ コミカフェ 社協見守りネット ワーク総会	25日 夏休み寺子屋 (クッキング)	26日
	市森神社夏の例祭		輝らきら体操 (交流)			
27日	28日 夏休み寺子屋 (習字教室)	29日	30日	31日		
		まめな教室 (交流)	輝らきら体操 (交流)			

※ 上記は、6月中旬時点の予定であり、追加および変更されていることがありますので、ご了承ください。

こーのこらむ

◆ 昨年の6月25日、日本で35番目となる国立公園が誕生した。「日高山脈襟裳十勝国立公園」である。森進一さんが唄って大ヒットした「襟裳岬」は有名であるが、そこから北海道の中心に向かう北海道の背骨と呼ばれる日高山脈、そして日高山脈から東の十勝地方がエリアだそうだ。◆ 国立公園、国定公園、世界遺産、日本遺産など自然や文化を保存・継承していくためのさまざまな施策により、地球環境や人間が創り出してきた文化が次の世代に受け継がれていく。◆ 昨年、崩落した日御碕の県道部分の海岸はジオパークにも指定され、かつ国立公園にもなっているところだ。勇壮で美しい景観の一部が自然の力でもろくも崩れてしまった。自然を守ることと、人々の暮らしを守ることの両立はなかなか厳しい現実がある。◆ 商業ベースに乗って行くとするとたくさんの観光客の誘引やインバウンドにより経済的に潤うことが目的のひとつになるかもしれない。反対に世界遺産よりも暮らしを選択し、登録を抹消されたドイツの例や、戦争により破壊されたため抹消された世界遺産もある。◆ いろいろな指定はそこに暮らす人にとってどんな意味があるのか、いいことなのか、そうでないことなのかを少し考えさせられるニュースであった。

センター長 高野 正次

集う・学ぶ・繋ぐ コミュニティセンター報

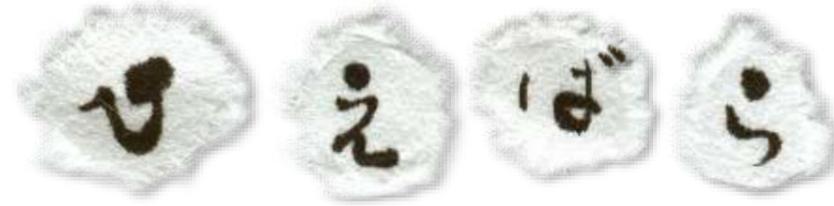
2025

6月号 No.359



稗原地区の世帯と人口

令和7年5月末現在 (前月比)
世帯数 540戸 (-1)
人口 1,448人 (-6)
(男) 713人 (-4)
(女) 735人 (-2)



【発行】稗原コミュニティセンター

TEL 48-0001 FAX 48-0048



hiebara - cc@local.city.izumo.shimane.jp

稗原コミュニティセンター



コミセン専門部研修 6/16 (月)

久々に県外での研修となりました。この日のメインは「サントリー天然水 奥大山ブナの森工場」の見学です。参加された26名のほとんどが初めての見学でした。米子道江府ICから30分、大山の麓にある高原にその工場はありました。最初に案内された部屋では、白く大山を模したジオラマにプロジェクションマッピングが映し出されると海から蒸発した水分が雨となって大地に染み込み、20年かけてこの天然水となっていく物語を観ました。そして次は製造工程の見学です。プリフォームと呼ばれるものに熱を加え、あっという間にペットボトルが完成します。殺菌、洗浄を経て天然水を注入します。そしてラベリング。どれも目には見えないようなスピードです。生産計画に従って製造ラインが稼働しているようですが、この日も、ダンボールの箱に入ったペットボトルが大きなトラックによって次々に運び出されていました。大山の工場生産された製品は中四国、近畿で販売されます。ここではたらく人は約100人。私たちが見学している時も窓の向こうから手を振って歓迎していただきました。多くは米子市内からの通勤で、冬場は積雪が2mになることから江尾駅の近くからバスで通勤されるようです。製造工程の見学も素晴らしかったのですが、それ以上に企業として自然環境を大切にする、地域に貢献するといった理念が前面に出ていることに感銘を受けました。

蒜山で昼食・買い物、境港で水産物の買い物をして帰路につきました。コミセンに到着する30分前から荒れた天候となり心配しましたが無事帰着しました。

